

第二一八回ペン川柳会

令和四年七月二十六日

お題 「盛・盛る」

■ 松谷 (零門)
れいもん

お手盛りもだんまり決める議員ども
見栄張って大盛りたのみ食い切れず

■ 八木 (明迷)
めいめい

盛り塩も見栄張るママはFカップ
遺言は棺の花は大盛りで

■ 稲宮 (井波)
いなみ

盛り付けで奥方様の天気知る
盛り返すコロナ元気でまた減入る

■ 西川 (酔雅)
すいが

盛る薬仕分けに迷う毎食後

老妻が盛る飯(メシ)横目に杯重ね

■ 曾山 (酩帝)
めいてい

お世辞でもお盛んですね言われたい
大盛りをもりもり食らう青い春

■ 安藤 (晃二)
てるつぐ

盛夏なり避暑は怖いと見栄を張り
盛り一枚ざるを横目の物価高

■ 三春 (火酒)
ウオツカ

幽霊と墓地で酒盛り暑気払い
虫封じ女盛りの浮気虫

■ 塚田 (拿々)だだ

達観す栄枯盛衰人の常
燃え盛る世界情勢先見え

■ 山縣 (安兵衛)やすべえ

大盛りのかけそばだけを食べていた
満票だいいじゃないかと盛り上がる

■ 大野 (だし)

この土地も日本盛が良いお酒
お盛んね言われてみたい今頃は

世話人 塚田 實(拿々)だだ